令和４年３月２４日

保護者各位

富山県立しらとり支援学校

令和３年度　重点課題（学校アクションプラン）の取組について

今年度の学校アクションプランとして設定した三つの重点課題について、取組の様子をお知らせします。

アクションプラン１＜児童生徒が主体的に進路選択できる進路支援の充実＞

一人一人の児童生徒に応じた進路先のイメージをもちやすくし、より主体的に進路選択できるよう昨年度は障害福祉サービス事業所ガイドブック（冊子版・タブレット端末版）の作成、事例に基づいた教員向けの学習会、障害福祉サービス事業所合同説明会に取り組み児童生徒や保護者、教員等に情報提供や直接事業所担当者と面談できる機会などを設けてきました。今年度は、タブレット端末版の内容の充実を図るとともに、授業や進路指導等で児童生徒一人一人の実態やニーズに応じて効果的に活用できるように以下のような取組を行いました。

＜障害福祉サービス事業所ガイドブックタブレット端末版の充実＞

・新規に９事業所（富山市７事業所、上市町１事業所、立山町１事業所）の協力を得て動画を制作しました。昨年度にガイドブックタブレット端末版に掲載した事業所と合わせて 20 事業所の情報を掲載しました。

＜障害福祉サービス事業所ガイドブック冊子版・タブレット端末版を活用した進路支援の推進＞

・小学部（５・６年）では生活単元学習の「働く人を見に行こう」の学習で活用しました。

・中学部では生活単元学習「働く人を見学しよう」「進路について考えよう」などの学習で使用し、将来の生活や仕事について考えました。

・高等部では「就業体験の事前・事後学習」で体験先の仕事内容を確認したり、体験の振り返りに活用したりしました。

・小学部・中学部の保護者対象の進路説明会でタブレット端末版を紹介するとともに、実際に会場で保護者が操作を体験できる機会を設定しました。

タブレット端末を使用したことや動画で紹介したことで、児童生徒が興味をもってタブレット端末を操作したり、仕事の様子に興味や関心を示したりする姿が多く見られました。今後も卒業後の生活の具体的なイメージがもちやすくなるような情報提供をするとともに、子供たちが主体的に進路選択できるよう、これらの取組の継続と一層の充実に努めて参ります。

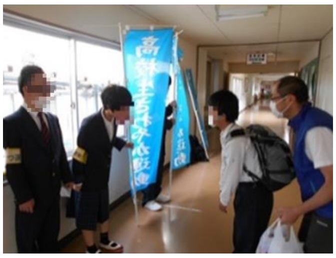
アクションプラン２＜主体的に挨拶できる児童生徒の育成＞

登下校時の挨拶「おはよう（ございます)」「さようなら」に加え、日中の「こんにちは」、更に、感謝の気持ちを伝える「ありがとう」を含め、挨拶の意識付けや習慣化を図りたいと考え、次のような取組をしました。

・児童生徒の実態を把握するためのアンケートを実施し、その状況を基に、児童生徒と担任が相談して一人一人の挨拶の目標を決めた。目標は学級内に掲示し、いつでも見られるようにしました。

・挨拶に関する指導の手立てとして、挨拶の大切さやクイズ等の教材を作成し、各学級の指導に活用できるようにしました。

・「あいさつの花を咲かせよう」運動を２回実施しました。「あいさつの花」のカードを全校児童生徒に配布して５日間の達成状況を５枚の花びらにそれぞれシールを貼ったり色を塗ったりして評価しました。１回目は６月に実施し、２回目の１０月には、「あいさつの花」に挨拶に関する成果やエピソードも記入しました。取組後には、全児童生徒の「あいさつの花」を校内に掲示し、意識づけと成果の共有を図りました。



・児童会、生徒会の児童生徒を中心に、あいさつ運動の週間であることを昼の校内放送で呼び掛けたり、児童会や生徒会執行部で、校内にイラスト入りのポスターを掲示したりしました。

これらの取組を行ったことで、児童生徒が登下校後、友達や先生に元気に挨拶したり、廊下ですれ違う際に「こんにちは」と声を掛け合ったり、手伝ってもらったら「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする場面が多くみられるようになりました。また、児童生徒一人一人に応じた挨拶の目標についての達成率は９７％と、ほとんどの児童生徒が、挨拶に関しての目標を達成することができました。今後も継続して取り組み、挨拶があふれる明るい学校にしていきます。

アクションプラン３　＜教員のＩＣＴ活用能力の向上３＞

今年度は児童生徒に一人に１台導入されるタブレット端末や校内に導入された Wi－Fi 環境を生かしたＩＣＴ機器の活用ができるように、児童生徒の授業での活用の促進や教員の更なる指導力の向上を図りたいと考えました。合わせて新しく導入されたＩＣＴ機器の管理面の充実も図り、タブレット端末を活用しやすい環境を整えたいと考えました。

具体的には、以下の四つの取組を行いました。

・児童生徒が一人１台ずつタブレット端末を用いて、教員が作成したソフトウエアや市販のアプリを活用して効果的な学習が行えるように取り組みました。

・大学教授によるＩＣＴ活用に関するオンライン研修会を始め、情報担当教員やＧＩＧＡスクールサポーターの教育用クラウドサービス利用方法の研修会等を一人３回受講しました。

・互見授業を行い、プレゼンテーションソフトの紹介やＩＣＴ活用技術や方法を教員間で共有する機会としました。

・児童生徒や教職員のＩＣＴ環境を整えるために、情報担当者によるアプリの導入、Wi－Fi 接続状況の確認、アプリやファイル操作の不具合の対応などを行い、授業で円滑に活用できるようにしました。

児童生徒は、アプリを使った漢字や平仮名の学習、写真や動画の撮影による植物の成長記録の作成、授業の振り返り、コミュニケーション手段としてのＶＯＣＡアプリの使用など、様々な学習場面でタブレット端末を活用しており、使用頻度も徐々に高くなってきています。実態により活用が進んでいない児童生徒もおり、今後の有効な活用方法について研修を進めていく必要があると考えます。

教員は、児童生徒の学習の理解を進めるためにタブレット端末やプロジェクタなどのＩＣＴ機器を活用し、児童生徒の実態に応じた教材を作成したり、事前・事後学習でプレゼンテーションソフトを用いて画像やイラスト等の視覚的情報を効果的に提示したりすることができました。また、教育用クラウドサービスのアプリを使用して、生徒が調べ学習で資料やレポートを作成しました。

【 保護者の皆様からのご意見 】

・挨拶ができる児童生徒の育成については、私たち大人同士が笑顔で元気に挨拶し合っていれば、子供たちはその姿を見て自然に挨拶できるようになると思う。

・進路説明会でタブレット端末の操作を体験したが、もっと見たいと思った。学習発表会などで、タブレット端末の閲覧コーナーを設けてほしい。

・ＩＣＴの活用については、学校内で具体的な取組が進んでいると思う。コロナ禍の中、アプリ教材の活用は貴重な経験になっていると思う。

【 学校評議員からのご意見 】

＜アクションプラン１について＞

・就業体験先を選択するに当たり、タブレット端末で実際の事業所の様子を動画で見て情報を得ることは、児童生徒にとって分かりやすく理解しやすい。タブレット端末に掲載する事業所が増え、児童生徒の皆さんが進路について考える一助となったことは評価できる。

＜アクションプラン２について＞

・小さい時に身に付けた挨拶は、社会人になったとき必ず役に立つと思う。

・児童が楽しんで取り組めるように工夫を凝らして目標達成されたことは、評価できる。校訓の「明るく、仲良く元気よく」のとおり笑顔あふれる学校だと常々思っている。

＜アクションプラン３について＞

・放課後等デーサービスの利用者さんもタブレット等を大変上手に使っている。ＩＣＴ機器を通して様々な情報を得たり、コミュニケーションツールとして活用したりすることは、将来の生活に役立てることができる。

【 学校評価アンケートから 】

保護者の皆様に学校評価アンケートをお願いしましたところ、約 90％の方より回答いただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事は分散して行いました。学習発表会や学習参観には、たくさんの保護者の方々に来校いただき、「子供たちの様子を見ることができ大変嬉しかった」「児童生徒が積極的に発表や学習に取り組んでいた」などのご意見をいただきました。また、いただいたご意見は、次年度の教育活動に反映させるよう検討していきたいと考えています。今後も様々な機会を通じて情報を発信し、保護者の皆様と共有しながら、児童生徒の安心、安全はもとより、日々の学習をより充実したものにできるよう学校運営を進めていきます。